

中国における「池田思想」研究の動向（19）

高橋 強・堀口 真吾

1. 池田思想研究の学術シンポジウム、フォーラム等

(1) 日中国交正常化50周年記念フォーラム

2022年11月11日、創価大学と清華大学が共催して「日中国交正常化50周年記念フォーラム——日中両国の交流と大学の使命」が、在中国日本国大使館後援のもと、両キャンパスをオンラインで繋いで開催され、約250名の教職員、学生らが参加した。

冒頭、中日友好協会の程永華常務副会長が挨拶にたち、「清華大学、創価大学を含む両国が共に手を携え、中日友好を継承する人材を育て、新時代の日中関係構築に尽力してまいりたい」と述べた。清華大学の楊斌副学長と創価大学の鈴木将史学長の挨拶に続き、以下の3名が「両国交流と大学の使命」と題して講演を行った（以下敬称略）。

前澤綾子 在中国日本国大使館参事官

李廷江 清華大学日本研究センター主任

神立孝一 創価大学副学長

ここでは、創立者の中国交流について述べた清華大学の李廷江主任の講演の一部を紹介する。

青年こそが中日両国民の相互理解を促進する上で、最も重要な要素の一つであることを歴史は示している。1960年、池田大作氏が32歳で創価学会の第三代会長に就任した後、1963年に高碓達之助氏が「日中友好の新しい代表者になってほしい」と池田大作氏を訪ね、そこから池田氏は日中友好のために金の橋を架ける決意をした。1968年9月8日に日本大学の講堂で行った国交正常化の講演は、実に重大な宣言であり、池田氏は中国問題を平和実現の鍵と考え、中国政府を公式に承認し、中国の国連復帰を支持し、これを公明党の対中政策の基本に据えることを提案した。

Tsuyoshi Takahashi（創価大学文学部教授）

Shingo Horiguchi（池田大作記念創価教育研究所）

池田氏は、自身の第2次訪中の際、北京で病床にあった周恩来総理と会い、中日関係史上、歴史的、現実的に大きな意味を持つ中日の会談を行った。ここで強調したいのは、周総理が30歳年下の池田氏に「アジアと世界の平和を結ぶ確かな道筋をつけ、後世の人々が日中友好の願いを実現できるように」と遺したことである。日中友好の聖火を22世紀に引き継ぐという池田氏の約束が守られていることも強調したい。池田氏は50年にわたり、総理の期待に沿って、創価大学のキャンパスに「周桜」を植えるとともに、中国大陸の東西に至るまで日中友好の種を蒔き続けてきた。中国を愛し、人類の共存、共生、共同発展の道をもって果敢に取り組む若い世代を育て関わってきた。

清華大学の日本語教育は、周恩来総理の指示で設立されたものであり、周桜が植樹されている創価大学と本日学術交流協定を締結できたことは、中日関係の発展における中日両国の大学の使命がますます重要になってきているという証であり、青年が中日関係の発展に、より大きな貢献ができるよう自身も尽力してまいりたい。

（2）池田大作教育理念と日中友好往来フォーラム

2022年12月16日、西安培華学院と創価大学の共催による「池田大作教育理念と日中友好往来フォーラム」がオンラインで開催された。日中国交正常化50周年記念として、創価大学2022年度日中友好研究助成に採択され、同学院「池田大作・香峯子研究センター」設立12周年記念の意義を合わせて行われた。

西安培華学院姜波理事長、創価大学鈴木将史学長が挨拶し、両国友好関係の永続のため、両校の更なる教育交流に力を注ぎ、人材育成をしていく決意が述べられた後、基調講演を含む5名の研究者による発表が行われた。

ここでは、基調講演を行った陝西師範大学池田大作・香峯子研究センター主任の拝根興教授の講演要旨を紹介する。

拝根興「中国大陸の池田大作研究ブームの形成」（陝西師範大学）

中国で池田研究が広まってきた理由について述べていきたい。1980年代、池田大作先生は、北京大学や復旦大学などから名誉教授を授与されている。その頃、池田先生とアーノルド・トインビー博士との対談集『21世紀への対話』の中国語版が出版され、中国全土の知識人の手に届くようになった。更に、敦煌文物研究所名誉院長の常書鴻博士や北京大学副学長を歴任した季羨林教授等との対談集も研究者たちにとって重要な資料となっていった。

更に、池田先生は10年にわたり中国を訪問し、その度に代々の国家の指導者との交流を行い、両国の友好の発展に努めてきた。これにより、中国国内では、池田先生が平和を愛し、教育や文化交流に力を注いでいることを理解する人が増えていった。更に、池田先生の創立した創価大学

の建学精神等にも触れる機会が多くなり、大学間交流も盛んになっていった。

こうした背景から、2000年代になって北京大学に「池田大作研究会」が発足し、以後、中国国内で多くの大学内に池田思想研究所が設立されるようになっていった。

2000年代には、戦争、環境破壊、自然災害など、多くの問題が世界的に表面化してきた。こうした問題の解決の為に、池田先生は常に的確な提唱を行ってきている。中央テレビ台などで池田先生の特集が放映されてきたこともあり、中国社会にも大きな影響を与えるようになってきている。

2006年には、創価大学が北京事務所を開設し、各地の研究所と連携をとって池田思想国際学術シンポジウムを定期的に開催するようになり、国内外の研究者同士の連携も深まっていった。平和、教育の発展を主張し、交流と対話を強調する池田先生の思想の体系や意義を研究し、それを中国国内の発展、教育の充実に活かしていきたいという研究者が増えてきているのである。

この他、本フォーラムで発表した研究者を紹介する。

叢暁波「池田大作の教育思想と実践」(創価大学)

肖 克「池田大作の徳性生活思想の特徴と貢献」(東北師範大学)

譚 皓「日本人の中国留学史と歴史的意義の共有」(天津大学)

馬樹茂「敦煌と池田大作—私と西安培華の縁」(西安培華学院)

(3) その他(学部生、院生、学生団体等のシンポジウム)

①「第1次訪中」48周年記念大会

2022年5月28日、仲愷農業工程学院の学生団体「廖承志・池田大作研究会(廖池会)」による、「池田先生第1次訪中48周年記念大会」が同会結成7周年記念として開催された。廖承志氏と池田大作氏の精神の普及について、今年度に行った様々な活動と成果が総括された後、同学院「廖承志・池田大作研究センター」の高岳侖主任が同会の今後の発展への期待と祝辞を述べた。その後、蔡立彬副主任が周恩来総理と池田大作氏が会談した際のエピソードを紹介し、日中両国の永遠の友好のため、両氏の思想研究を出版や論文という形で今後も推進していくとともに、同会が日中友好に積極的に貢献するよう激励した。

②日中学生オンライン交流会

2022年6月12日、創価大学と深圳大学の学生によるオンライン交流会が行われ、日中両校の学生55人が参加した。交流会の中で、深圳大学の王序進教授が講演を行い、深圳大学と創価大学の交流の経緯に触れ、池田氏のこれまでの中国との交流を紹介し、日中友好の重要性について

語った。また、外国語交流による国際的な視野を広げ、両国の距離を縮めて新しい友好関係を築く交流会となるよう励ましを送った。

③周恩来・池田大作会見 48 周年記念シンポジウム

2022 年 12 月 5 日、仲愷農業工程学院の学生団体「廖承志・池田大作研究会（廖池会）」が、周恩来総理と池田大作氏の会見 48 周年を記念するシンポジウムをオンラインで開催した。同学院「廖承志・池田大作研究センター」の高岳侖主任をはじめ、担当教員、来賓、研究会学生等、40 人以上が参加した。シンポジウムでは、学生による中日友好関係への期待や願望等が語られた。

高主任は、新型コロナウイルスの影響を受けた大変困難な状況にもかかわらず、毎年の恒例行事として 12 月 5 日の周恩来総理と池田大作氏との会見の日に、粘り強く開催したことを称賛し、学生たちが過去を引き継ぎ、更なる友好を積み重ねていくことで、中日両国の友好関係を、幾世代にもわたって貢献して欲しいと呼びかけた。

④第 8 回国際青年フォーラム

2022 年 12 月 17 日、台湾・中国文化大学の「池田大作研究センター」が主催する第 8 回「国際青年フォーラム」が台北市の同大学で開催され、「21 世紀の青年—平和・文化・教育」のテーマのもと、約 100 名の教員、学生らが参加した。

中国文化大学の王子奇学長らが挨拶し、同大学をはじめ台湾大学・中山大学などの大学院生が、計 7 本の論文を発表し、池田氏の教育哲学を考察した。

2. 論文・講演発表等

(1) 創立者池田大作先生が日中国交正常化 50 周年を記念して『日本学刊』に寄稿文を発表

中国社会科学院日本研究所と中華日本学会が共同で発行している総合的な日本研究の学術雑誌である「日本学刊」2022 年第 4 期に、創立者は「承前启后, 继往开来(過去を継承し、未来へと拓く)」と題し寄稿文を発表した。

冒頭、創立者は、日本の総合月刊誌『文藝春秋』1965 年 8 月号に掲載された自身へのインタビューにおいて、世界の平和を確立するために、中華人民共和国を一刻も早く承認し、国連への加盟を積極的に推進すべきであると初めて発言したことに触れ、今日に至るまで、この信念は変わることはないと述べた。

次に、この論文発表から 3 年後の 1968 年 9 月 8 日に、1 万人を超える学生の前で行った「日中国交正常化に関する提言」について回想し、多くの友好的な人々のたゆまぬ努力と様々な障害を乗り越えて実現した両国の国交正常化によって、日中間の交流が盛んになったことを喜ぶとともに、提言の中で、「核時代において、人類を絶滅の危機から救う鍵は、国境を越えた友好関係

の確立にある」と述べたことについて、将来的には、両国の若い世代に注目し、お互いに実りある平和・文化・教育交流を行ってほしいとの期待を寄せた。

最後に、中国の詩人王維が、親しい日本の友人である阿部仲麻呂に贈った詩を通し、物理的な距離が短くなった現代において、国際情勢が変化する中でも、国境や人種の違いを超えて人と人との絆を深め、次世代に向けたより広い絆を築いていきたいと念願。さらに、日中国交正常化50周年にあたり、両国が相互信頼と友好を基礎に、真に開かれた心であらゆる障害を克服し、未来と平和のために人々の交流をさらに深め、両国の友好の歴史に新しい未来を共に築くことへ期待を寄せた。

(2) 創価大学通信教育部で中国の池田思想研究者によるオンライン授業「人間教育論 B」を開講

中国の各研究機関による池田思想研究のこれまでの成果の発表の場として、創価大学通信教育部生を対象に、複数の講師陣によるオムニバス形式のオンデマンド授業「人間教育論 B」が2022年4月より開講された。

担当した研究者、タイトルは以下の通り。(順不同)

黄順力「池田大作平和主義『民衆外交』思想と日中友好」(厦門大学)

温憲元「池田大作の平和主義思想」(広東省社会科学院)

高岳倫「平凡な国家公民からを非凡な世界公民へ——学びと研究を通して池田大作世界市民教育思想を理解する」(仲愷農業工程学院)

紀亜光「『周池の友情』と『周池の精神』」(南開大学)

冉毅「池田博士の人間主義・人間革命論」(湖南師範大学)

賈蕙萱「池田大作夫妻との幸運な出会い」(北京大学)

李俄憲「池田大作の文学理念——その児童文学における倫理価値を中心に——」(華中師範大学)

陶金「『平和』・『対話』と二十一世紀の『女性』——池田大作先生の現代女性観について」(大連海事大学)

崔学森「池田大作の平和思想と実践」(大連外国語大学)

劉愛君「中国の大学における池田大作研究と青年の育成～大連工業大学の実践を例として～」(大連工業大学)

胡令遠「世界平和のため：池田大作先生の思考と行動」(復旦大学)

李彦良「池田大作研究センター着任後に会得したもの」(台湾・中国文化大学)

唐彦博「池田大作の国家指導者における役割と発展」(台湾・中国科技大学)

高橋強「創立者の『4つの主義』の特色」（創価大学）

叢暁波「幸せとは何だろう－池田幸福思想を兼論して」（創価大学）

（3）執筆論文等

『日本研究文選（1981-2020）』（社会科学文献出版社、2021年5月）

林昶「創価学会が中国の表舞台に立つまでの歴史的考察——『人民日報』と書籍メディアを中心に」（南京大学）

『日本学』第21号（世界知識出版社、2022年6月）

賈蕙萱「池田大作——北京大学の特別な日本人友人」（北京大学）

『大連大学学報』2022年第3期「北東アジア研究 - 池田大作特集」

張曉剛「池田大作の世界平和思想と中国伝統和合思想との同異点の分析」（長春師範大学）

劉愛君・鄭培国「池田大作の“対話”思想と実践の分析」（大連工業大学）

洪剛「池田大作氏の生命尊厳思想を海洋運命共同体の視点から分析する」（大連海事大学）

『長春師範大学学報』2022年7期

彭傑・陳曦「池田大作の“生命尊厳”思想研究」（大連海洋大学）

3. 新設の池田大作研究機関

機 関 名：河北外国語学院「池田大作研究センター」

設 立：2022年4月27日

所 長：趙騰（日本語学院学年主任）

設立趣旨：民間交流を通じて両国の相互理解を促し、友好の発展に多大な貢献を果たした池田大作の足跡と理念の研究を深めることで平和への方途の探求を目指す。

4. 池田研究の成果等

2022年度の創価大学「日中友好研究助成」に採択された研究者が、創価大学で3か月間の短期滞在研究を行った。滞在教員及び研究テーマ、滞在中に行われた研究会について紹介する。

「研究者及び研究テーマ」

崔学森「池田大作の政治思想と実践に関する研究」

（大連外国語大学）2022年7月より

肖克「池田大作の道徳的生活と道徳育成思想及び国際的宣揚効果の促進」

（東北師範大学）2022年11月より

譚皓「近代中国の日本留学生たちについての研究」

(天津大学) 2022年12月より

楊衛芳「周恩来、池田大作と人類運命」

(天津大学) 2023年1月より

張曉剛「池田大作世界平和思想と伝統思想の和合思想に関する比較研究」

(長春師範大学) 2023年3月より

「日中友好研究助成による研究滞在者との研究交流会」

2022年9月5日 崔学森「池田政治思想の理論と実践」(大連外国語大学)

2023年1月23日 肖克「池田大作の徳性(美德)生活の概念と内容の特徴」(東北師範大学)

譚皓「近代日本人留学史」(天津大学)